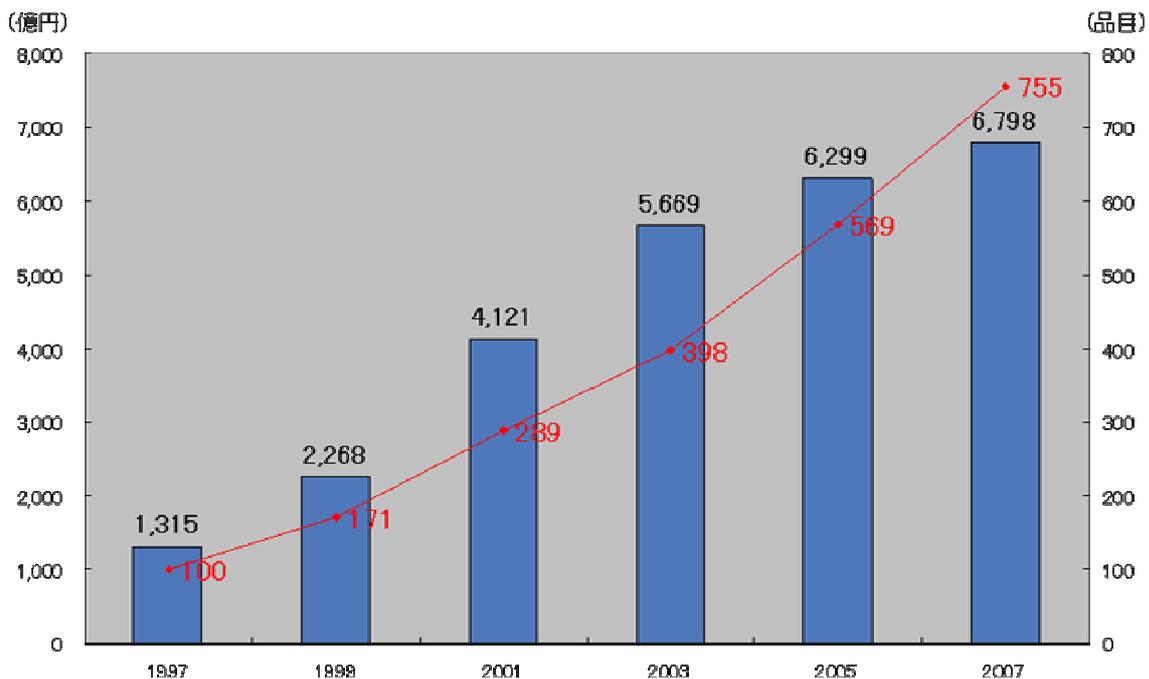


HOT NEWS OF JAPANESE NUTRITION/HEALTH INDUSTRY**Nov.1-15, 2008**

日本健康・栄養食品協会の発表によると、2008年11月5日現在の特定保健用食品の許可品目数が808品目となった。2007年1年間での許可品目数が128品目と過去最高を記録したのに対して、今年には大幅に減少する見込みである。

下記グラフは、1997年以降10年間のトクホ売上(小売ベース)及び品目数の推移を表している(数値は日本健康・栄養食品協会)。



市場規模拡大と共に新規参入商品も増加しており、競争が激化してきている事がわかる。このグラフの市場規模は小売ベースであるので、企業売上ベースで考えるとさらに厳しい事が予測できる。

個別商品別売上でみても、年間100億円以上の売上を有するブランドは10程度である。それでもトクホ取得までの開発経費を考えると、投資を回収するにはかなりの時間が必要である。また、トクホだからと言って、プレミアム戦略を取っている企業も少ない。

「トクホが売れるとは限らない」という声は業界内でもよく聞かれる言葉であるが、理由はふたつ考えられる。一つは許可された「ヘルスクレーム」だけでは、消費者がベネフィットを理解する事が出来ない事、もう一つは、同質的競争となり、消費者からは同じような商品にしか見えない事である。

日本の健康・栄養産業には「成熟化」の傾向が現れている。伊藤元重氏によると、「成熟化」とは同質企業のオーバーカンパニー体制である。需要の全般的な増加が望めない状況では、競争が激しくなり、他との違いを出さないと、お客を引きつけられないのである。

個々の企業が、他との違いを出す「差異化」に生き残りをかける必要がある。「総合から専門へ」というトレンドが示している背景である。

NEW PRODUCT

ハウス、「ウコンの力」カシスオレンジ味を発売

ハウス食品は、2004年5月に発売を開始して以来好評の機能性飲料ハウス「ウコンの力」シリーズに、女性に人気のあるカシスオレンジを新たに追加して11月17日より発売する。100ml1本にウコンの健康成分であるクルクミンを30mg配合。女性のニーズに応じて1本あたり16キロカロリーの低カロリー、ビタミンCも1本あたり100mg配合している。朝から夜まで忙しくウコンの必要性を感じる人をサポートする飲料となっている。100ml / 190円。

(2008年11月4日 ハウス食品株式会社 プレスリリース)



協和発酵バイオ、配合成分強化の「リメイク 野菜から生まれた発酵グルコサミン」を通販で販売開始

協和発酵バイオ株式会社は、11月5日よりエビ・カニなどの甲殻類由来ではなく植物を発酵させて作ったグルコサミンを配合したサプリメント「リメイク 野菜から生まれた発酵グルコサミン」を通販限定で発売開始した。発酵グルコサミンをたっぷり1,200mg配合し、スムーズな関節の動きをサポートしグルコサミンとの相性も良いMSM(メチルスルフォニルメタン)と軟骨抽出物も合わせて配合している。240粒(約30日分) / 4,500円。

(2008年11月6日 協和発酵バイオ株式会社 ホームページ)



タカラバイオ、寒天由来成分配合のサプリメント「グルコサミン+アガロオリゴ糖」を発売

タカラバイオ株式会社は、寒天由来のアガロオリゴ糖配合のサプリメント「グルコサミン+アガロオリゴ糖」を11月18日より販売する。アガロオリゴ糖はタカラバイオが独自に開発・製造した寒天由来のオリゴ糖で、他のオリゴ糖には見られない特有の機能性を備えている。1日量12粒に、軟骨の構成成分であるグルコサミン1,500mgにアガロオリゴ糖200mg、型コラーゲン100mg、ビタミンB6 1mg、葉酸200μg、ビタミンB12 2μgを配合。360粒(30日分) / 5,040円。

(2008年11月6日 タカラバイオ株式会社 プレスリリース)



タカラバイオ、寒天由来成分配合のサプリメント「グルコサミン+アガロオリゴ糖」を発売

タカラバイオ株式会社は、活力サポートサプリメント「クーガイモ」をリニューアルして11月18日より販売開始する。食品添加物を使用せずに錠剤化することにより、1日の摂取目安量を12粒から8粒に減らし、飲みやすさを向上させた。国産のクーガイモと福地ホワイト六片種のニンニクだけを原料としている。クーガイモの健康成分はそのままに、ニンニクエキスは従来品の約10倍に増量した。240粒(30日分) / 5,040円。

(2008年11月11日 タカラバイオ株式会社 プレスリリース)



伊藤園、「1日分の緑黄色野菜」を発売

株式会社伊藤園は、主力の野菜飲料「1日分の野菜」ブランドで初となるチルド製品「1日分の緑黄色野菜」を11月17日に発売する。同製品はコップ一杯あたり厚生労働省が推奨する緑黄色野菜の1日分摂取量(120g)を使用して製造されている。ニンジンを中心に28種類の野菜を使用。砂糖・食塩不使用でチルド製品らしいフレッシュで自然な味わいとなっている。1パック/298円。

(2008年11月11日 株式会社伊藤園 プレスリリース)



赤穂化成、対策水シリーズ第2弾「冬の健康対策水」を発売

赤穂化成は、12月1日より今夏好評を博した対策水シリーズの第2弾「冬の健康対策水」を販売する。「冬の健康対策水」は健康成分としてカリン果汁、ゆず果汁、しょうがエキス、深層水ミネラル、ビタミンCを含有し、風や冷え性に効果の期待できるドリンクになっている。同社の研究ではすでに、深層水ミネラルの主成分であるマグネシウムが、ヒトの唾液中の免疫物質S-IgAを増加させることを確認しており、「冬の健康対策水」には、この研究と同濃度のマグネシウムが含まれている。

(2008年11月12日 赤穂化成株式会社 プレスリリース)



COMPANY NEWS

ワタミ、サントリーと資本関係を強化

居酒屋チェーン大手のワタミは11月11日、サントリーとの資本関係の強化を発表した。同社社長の渡辺美樹氏が保有する株式の約3%分をサントリーに譲渡することで同意した。金額は22億円程度の見通しだ。これにより、サントリーのワタミの発行済み株式保有率が5.01%から8.01%になり、第2の株主となる。ワタミは介護事業、弁当宅配事業を強化しており、サントリーの飲料製品や健康食品が同社の提供メニューの拡充につながると判断したようだ。

(2008年11月11日 朝日新聞)

SCIENCE NEWS

日清食品HD、食品中の発がん物質の新しい試験法を開発

日清食品ホールディングス株式会社は、食品に含まれる発がん性物質の新しい試験法である「発がんプロモーター短期検出法」を開発した。食品に含まれる発がん物質には、体内の遺伝子に直接変異を引き起こすものと、遺伝子変異を引き起こさずに他の発がん物質の発がん作用を促進するものがあるが、後者の発がん物質検出には、従来動物実験のほか「BALB/c 3T3細胞を用いた形質転換試験」があった。この方法は発がん物質の検出能力の高さ、試験施設による検出能力のばらつきのなさなどの優れた面がある一方、検査に時間がかかり簡単ではないので、多数の検査対象への検査には不向きであるという

面も持っていた。そこで同社は、食品に含まれる発がん物質を短期間で簡便に、かつ低コストで検査できる試験法「発がんプロモーター短期検出法」を独自開発した。この試験法を利用して、同社は発がん性に関する安全情報を集積し、製品の安全性をさらに高めていく方針だ。尚、同社は現在同試験法を特許出願中である。

(2008年11月11日 日清食品ホールディングス プレスリリース)

小林製薬、前立腺肥大症に対するノコギリヤシエキス含有食品の有効性を確認

小林製薬株式会社は、同社の研究により、日本人の前立腺肥大症患者に対するノコギリヤシエキス含有食品の有効性を確認し、11月8、9日に横浜で行われた日本補完代替医療学会学術集会において発表した。この研究では、前立腺肥大症と認められた被験者12名を2つのグループに分け、一方にはノコギリヤシエキス含有食品を、もう一方にはプラセボを投与した。その結果、ノコギリヤシエキス含有食品を投与したグループに排尿障害の改善が確認された。ノコギリヤシエキスは長年日本でも健康食品として親しまれてきたが、前立腺肥大症患者に対する有効性が確認されたのは本研究が初めてとなる。

(2008年11月10日 小林製薬株式会社 プレスリリース)